

登山電車の ベル・ニーナ・サン



高森千穂
ふじしま青年・絵

ベルとニーナとサンは、登山鉄道の小さな電車です。あざやかな赤い色をしています。

山のふもととのえきと、山の上のえきのあいだを、はしっています。五百メートルも、山をのぼります。

山をのぼるときも、おりるときも、三だい、つながってはしります。

一年中、山にはすてきなことが、たくさんあります。春のさくら。夏のあじさい。秋のもみじ。冬のゆき。

お花見やハイキング、スケートの人が、ベルたちにとります。

山のふもとには、たっぷりのおゆのわいている、おんせんがあります。ゆけむりが、登山鉄道のせんろのまわり、あちらこちらから立ちのぼっています。

おんせんにきた人が、ベルたちにとります。

まいあさ、三だいは、山のふもととのえきのプラットホームにならびます。せんとうはベルです。ニーナがまんなか、サンが一ばんうしろです。

ベルとサンには、運転せきがついていますが、ニーナにはついていません。だから、ニーナはいつもまんなかです。けれども、一ばんたたくさん、おきやくさんをのせることができるのは、ニーナです。